

【AEDに（自動体外式除細動器）について】



日本では毎年約7万人（1日約200人）もの人が心臓突然死で亡くなっています。また平成20年度から24年度の5年間で、全国の学校において児童生徒に対して心肺蘇生やAEDを実施した数は1068人、そのうち小学校での発生は584件（単純計算で3～4日に1件）との報告があります。

救命の切り札となるAEDは平成25年の段階で全国の小学校の99.7%とほぼすべての学校に設置、または設置予定となっています。

それらを踏まえて、初めてAEDについてアンケートを行いました。

心肺蘇生法の教育事例：さいたま市 ASUKA モデル

ASUKA モデルは平成23年、駅伝選手選考会で起きた事故で亡くなられた桐田明日香さん（当時11歳）のお名前が愛称として用いられ、さいたま市のホームページやYouTubeでも公開されています。

さいたま市、そして今は全国へと、小学生からのAED講習・授業が増えてきました。

YouTubeQRコード



栃木県では小学校の運動会中に保護者が倒れ、AEDを使用し助けられた事例が新聞に掲載され、親子ふれあい授業等でAED講習を保護者と児童と一緒に学ぶ機会が設けられ始めました。